

いかにして RT が、CIA、FBI、NSA の間抜けた “すっぱ抜き” の的となったか

【訳者注】NSA は（スノーデンのいた）国家安全保障局。まず冒頭でわかることは、ワシントン・ポストの虚報撤回 (<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170104.pdf>) に引き続いて、NY タイムズも、記事の冒頭でおそらくわざと、矛盾した、前言を取り消すようなことを言っていることである。御用新聞代表の両紙も、さすがにこの問題だけは馬鹿々々しくて、真面目にヤッテラレなかったのだろう。

この論者も、ロシアの米選挙妨害 “ハッキング” 問題についての、「国家情報局長官」の提出した報告書が、RT を悪者に行していることに驚き、これを細かく読んだ上で、そのロシアについての無知にあきれている。してみるとこの報告書は、大そうなタイトルをつけた、こけおどし文書で、これを真面目に報道する日本のメディアは、また別の嘲笑の種になるだろう。

本当のことを言う RT は、ワシントンにとっては許せぬ存在で、少し前に、RT はテロリストと同じものだから禁止せよと発言した、アメリカのメディア連合会長がいた（後にこの過激発言を撤回したが）。RT から真実を教えてもらって感謝している私としては、論者ブライアンとともにこう言いたい——「ワシントンよ、RT は、お前んとこの人民に真実を教えて、彼らがお前たちに騙されないように、アメリカが滅びないように努力しているのだ。ハッキングもへちまもあるか、馬鹿め！」これが全体の要旨でもある。

Brian MacDonald (ロシアを本拠とするアイルランドのジャーナリスト: RT を代弁するものではない)
RT, January 7, 2017



ロシア・トゥデーのニュース・ルーム

米国家情報局長官（DNI）の長く待たれた報告書「ロシアの活動と最近の米選挙における意図の調査」は、こんな長いタイトルは要らなかった。“我々は実は RT が気に入らないのだ” と言えば、それで十分だった。

ほとんどすべての西側の大手ニュース・メディアが、この話をまき散らしている。しかしおそらく最も面白いのは、ニューヨーク・タイムズである。このアメリカの“高級紙”は、この DNI の宿題の報告を「のっぴきならない、驚くべく詳細な」報告と呼びながら、数パラグラフ先では、この分析には現実的な証拠は含まれていない、と認めている。

関連記事：「今までずっと、ロシアはアメリカの政治に“影響”を与えてきた——それは DNI が考えるようなものではない」 <https://www.rt.com/usa/372890-odni-rt-influenced-election/>

だからこの大新聞は、DNI の発表を決定的なものだと言ったかと思うと、わずかの間隔をあけて、それはすべて推測だと認めているのである。「この極秘の報告には、情報局がそのデータをどうやって集めたか、あるいは、その結論に達したかについて、何の情報も含まれていない」と、David E. Sanger という記者は言っている。彼は次いで、さらに手品の袋に手を突っ込んで、「これは懐疑派から攻撃されても仕方がない」と警告している。

そう、その懐疑派だが、彼らは恐ろしいのではないのか？ 例えば、情報部の文書を、誰も額面通りに受け取らないとしたら？ 特に、核兵器をもつ超大国が、アメリカの民主的な手続きに介入してきたと警告しながら、その証拠の一切れも出せないとしたら？ ましてや、それが、ロシアについての知識がほとんどない者たちの手で、つなぎ合わせたものらしいことがわかったら。

報告書には例えば、**Breaking the Set** とか **Truthseeker** のような RT 番組のことが言及されていて、いかに RT が、アメリカ大統領選でヒラリー・クリントンを落選させようとしたかを強調している。しかし、この特集番組は両方とも、ほぼ 2 年前に放映されたものだ。

そしてその当時、クリントンは 2016 年の決戦の民主党候補でさえなかった。その上、とても奇妙なことは、この報告が、その点でちょっとしたディスクレーマーのついた、古臭い報道の一部のようにみえることだ。

関連記事：<https://twitter.com/AbbyMartin/status/817497773704671236/photo/1>

（ロシアについての公的 DNI 報告が、2 年前に終わった私の番組 **Breaking the Set** のおかげで、ヒラリーが落選したと言っている。）

昔の情報の流れがまだ続く。読者は、RTのアラビア語放送の主任が Aydar Aganin で、ロンドン局の主任が Darya Pushkova だと信じ込まされるだろう。これらは二人とも現在 RT で働いておらず、長い勤務でもなかった。そして後者に焦点が当てられたのは、おそらく、彼女が、“ロシア連邦外交問題委員会の現在の議長、アレクセイ・プシュコフの娘”と紹介されているからだろう。

しかし彼女が RT に雇用されていたとしても、何か異常があるだろうか？ 結局、ジャーナリストは、どの時期かに政治に関係していた家族のいることが多い。例えば CNN のホスト Christiane Amanpour の夫、James Rubin は、ヒラリー・クリントンのアドバイザーで、彼女の夫、ビルの下で国務次官を務めていた。

深さを測る

ではこの報告書はどれくらい、まずいか？ トップの 1 から 10 までの評価があるとしたら、それは 11 であろう。そのメッセージの核心は、リベラルの大衆メディアと調子の合わない見解をもつことは、米情報局員によって敵対行為とみなされる、ということのようだ。そして彼らがここで特に擁護しているのは、リベラルの新聞のものの見方である。ところでこの支持が、国家の役人のものであった場合、正当なものかどうかは、各人の判断によるだろう。

関連記事：「RT が、ODNI（国家情報局長室）の報告書、“米大統領選におけるロシアの活動と意図”に登場」<https://www.rt.com/usa/372864-odni-report-russia-hacking/>

この文書のほぼ 3 分の 1 が RT を中心にしている。そして、そこに言われていることは、CNN、NBC、CBS、ワシントン・ポスト、ニューヨーク・タイムズ、などが力を合わせても、米選挙に影響を与えることができなかつたのに、RT はこれに成功したという事実を呑み込め [不自然ではないか]、ということらしい。500 社のアメリカのメディアがクリントンを推奨していたのに、トランプ次期大統領を推奨するのは 25 社だけだったという現実は、言うまでもない。こうなると、もう付き合っていられない。「バカもいい加減にしろ！」と叫びたくなる。

一方、ここで提供されている RT の“背景の情報”は、下手に翻訳された 10 年も前の古い記事や、とうの昔の統計に基づいて、編まれたようである。結果として、現実に 2016 選挙に関係のある唯一の現在の資料は、“ロシアの米選挙ハックは、RT のクリントン批判からきている”ということに絞られる。この主張がいかに馬鹿々々しいか、明らかにその作者には分かっていないようだ。

脆弱な事実

間違いは数えきれないほどある。RT 利用者の数は時代遅れである。そして全体的印象は、素人のシンクタンクの編集したものといった感じである。実際、たくさんあるロビー会社の反ロシア報告書の方が、この提出物よりは洗練されているだろう。しかし彼らは、このいかにも学術文書のようなタイトルを付けて、賭けに出ており、DNI は米情報局の中でも、最上の頭をもっていると思わせている。

関連記事：<https://twitter.com/NinaByzantia/status/817501794255380484/photo/1>

(何より確かな証拠 (RE)：米情報局報告によるロシアの介入——RT の [マルガリータ] シモニヤンが、とうの昔からホワイトハウスを跨いで歩いている漫画：「冗談だろう、米情報局が、ロシアがアメリカをハッキングしてるなんて騒いでも、新聞は驚かないぜ」)

もちろんこれは、ソ連の崩壊後のアメリカでは、ロシア研究の助成金が乏しくなった結果だと言えなくもない。そしてそれを多くの人が主張している。これら3つの部局が、ロシア・デスクのためのもっと優れた専門家を雇うことが、急務であるのは明らかだ。例えば、ロシアに少しでも滞在して、その言語の基本を把握する必要を指摘する人が必要である。

さらに時代遅れの事実が続いている。ユーチューブ閲覧数に関して、この報告は、RT について8億という数値をあげているが、実はその5倍の40億であり、増え続けている。英語チャンネルだけでも、現在、15億のヒットを誇っている。

関連記事：「RT は、アメリカ人に、情報を与えた上で決定するよう、事実を教えることによって、ワシントンを欲求不満にしている——バージニア州上院議員」
<https://www.rt.com/op-edge/372884-rt-facts-frustrate-washington/>

こういう数値はこの報告書を見かけよくしているので、この点は強調しなければならない。この編さん者たちは、明らかに、発表前にインターンを使って、数字をアップデートするだけの手間をかけなかった。

さらに、“調査研究者”たちが Dmitry Kiselev と Vladimir Zhirinovsky を、何か影響力のある人物のように言っている。彼らは、前者の TV 番組が、トランプ候補に有利だったようなことを言っている。しかしこれは、ロシアの国内向け番組で、ロシアに住み、米選挙に投票できない人たち向けのものだった。同様に、ジリノフスキーがあがっているのは奇怪だ

(彼は“クレムリンの代理人”にされている)。なぜなら彼は年老いた道化師だからである。そして、たまたま彼が、トランプが勝利したら「シャンパンで乾杯せよ」と言ったのは、彼の過去の発言を考えると穏やかなもので、彼はかつて、ジョージ・ブッシュの兵士がイラクを侵略したら、「八つ裂きにされる」と予言した。だから彼はノストラダムスではない。だから彼のプーチンへの影響力などは、ないに等しい。

DNI の報告書は評価以下である。そして辞めていくオバマ大統領が、これほど洞察力もなく質の悪い情報に基づいて、ロシアとの嫌らしい外交戦争を掻き立てたのだと考えると、恐ろしくなる。ここには、著者たちが、何か特別の知恵とか洞察をもっていることを示すものは、何もない。実際、学生のグループが、NY タイムズのバックナンバーを読んだだけでも、これくらいの内容のものは書けると言ってよい。

しかし最大の収穫は、アメリカのロシアについての知識の程度が、不気味なほど低いとはいわないまでも、いかに乏しいかが分かったことである。だから、この報告書が慰みの種にはなるとしても、現実の政策としてのその意味合いは、危険という以外にない。